

### ③ 廃線トンネル

(春日井)

# 歴史遺産 息吹き返す

どっしりと構えた赤れんがのトンネル、色づいたモミジの巨木、渓谷を流れる庄内川。昨年十一月下旬、春日井市玉野町の旧国鉄廃線跡であった市民見学会。山あいに残る産業遺産を一見しようと県内外から三日間で一万五千人が訪れた。主催したのは同市のNP

〇法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」(会員八十年余り放置されていたと六人)。山本勝利理事長は「予想をはるかに上り、メンバーの一人で、鉄道回る人出。遺産の価値が認められ」と、手応えを感じている。会が保全を進めるのは、庄内川沿いの旧国鉄中央線跡に残る総れんが造りのトンネル群。路線は一九六六年の複線化工事で廃線となったが、県境を挟んだ八ヶ間の区間には十三基が点在している。

大規模な崩落もなく、四十年余り放置されていたと六人。山本勝利理事長は「予想をはるかに上り、メンバーの一人で、鉄道回る人出。遺産の価値が認められ」と、手応えを感じている。会が保全を進めるのは、庄内川沿いの旧国鉄中央線跡に残る総れんが造りのトンネル群。路線は一九六六年の複線化工事で廃線となったが、県境を挟んだ八ヶ間の区間には十三基が点在している。

清須市は「二世紀以上れいな形で残っているのは前のトンネルがこれだけ。全国でも珍しい」とみる。

三年前はやぶに埋もれた状態だった。会の発起人で事務局長の村上真善さん(五七)は「こんなところにトンネルなんてあるわけないと半信半疑。見つけた時は本当に感動した」。

現在は春日井市側一・五キを整備し、年二回の見学会を企画。活動が認められ、経済産業省の「近代化産業遺産」に認定された。目標は、廃線をいつでも往来できる「自然と歴史の遊歩道」として再生させること。そのため土地の買い取り資金を目指した「ナショナルトラスト活動」も展開中だ。

「「もったいない」の精神で始めたが、大きな動きに成長している。全国から人が集まる地域の宝になってほしい」と村上さん。時代に埋もれていた遺産が、市民の力で息を吹き返している。



旧国鉄廃線跡に残るれんが造りのトンネル。多くの見学者が立ち止まって見入っていた。春日井市玉野町で

われらが歴史の自慢

(木谷孝洋)

